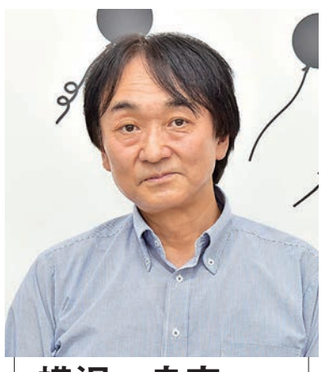
リーディングラベル印刷会社
ザ・生産現場

㈱シール堂印刷
（東京都品川区）

デジタル印刷機が実現する「SDGs印刷」
“脱請負”の方針掲げる自社商品開発も積極化

環境配慮型素材の「バナナペーパー」製品を扱う㈱シール堂印刷（東京都品川区西五反田、新保段一郎社長、☎03・3493・2131）は、持続可能な製造・販売体制を目指す「SDGs印刷」を推進。同素材の普及を担うワンプラネット・ペーパー協議会に参画して幅広い商品開発に注力し、培った企画力を自社商品に還元する。製造にはコニカミノルタ製のデジタルラベル印刷機「AccurioLabel190」を活用し、資材ロス低減などの利点を生かす。SDGsに向き合う意義などについて、埼玉事業所の横沢良宏所長に聞いた。（大野）


横沢　良宏 所長

――貴社のSDGs関連の動静から伺います

「現在、当社の売り上げの比率はバナナペーパーや生分解性を備えたバイオマスフィルム『エコマリンタック』などのSDGs製品が増加傾向です。コロナ禍で従来手がけてきた〝非SDGs〟系製品の売り上げは、日用品分野で一部特需はありましたが全体ではダウンし、徐々に売り上げの比率が変わってきています。ホームページ経由の問い合わせでも、SDGs関連製品への引き合いが最多の状況です」

「印刷会社の製品としては環境配慮型素材を活用することが分かりやすいSDGs対応ですが、製造体制にまで目を向けると、より広い意味でSDGsの目標達成に貢献できるのではないでしょうか。当社の埼玉工場ではグリーンピープルズ パワー㈱の再生可能エネルギーの電力に切り替えているほか、資材ロスが抑えられ廃棄物の少ないデジタル印刷機『AccurioLabel190』も導入しています。グリーンエネルギーによって必要な分だけラベルを製造することは、持続可能な社会を実現する『SDGs印刷』と呼べるでしょう」

――SDGs対応が印刷会社にもたらす影響とは

「SDGs達成目標の17項目は、経営方針を定める際の羅針盤になると捉えています。エコマリンタックの製品を扱うことになったきっかけも目標14『海の豊かさを守ろう』を意識したことで、環境省が展開する海洋プラスチック問題の解決に向けた『プラスチック・スマート』キャンペーンにも参画しています」

「バナナペーパーには、環境配慮以外のメリットもあると感じています。SDGs印刷に取り組む前は、お客さまから要望のあった基材を仕入れて印刷するだけのケースが大半でした。一方でバナナペーパーを提案することで、ザンビアから輸入したバナナの茎から取れる繊維を紙へ加工するまでの工程に当社もワンプラネット・ペーパー協議会の一員として深く関わっているため、どのようなデザインにしていかに活用するのかといった企画の上流段階からお客さまと相談ができるのです」

多彩なバナナペーパー製品を扱う

――貴社はマスキングテープなど自社商品開発にも注力していますが

「バナナペーパーを活用した商品開発に取り組むことで、自社ブランド商品の展開にもSDGsを積極的に盛り込んでいくことを意識できています。マスキングテープのデザイナーShinzi Katoh氏から『絶滅危惧種の動物をデザインに取り入れたシリーズを出したい』と相談を受けた際、国際自然保護連合日本委員会（IUCN日本委員会）に当社から打診して、絶滅危惧種シリーズの売り上げの一部を寄付するコラボレーションにも発展しました。もともとIUCN日本委員会とはSDGs関連のセミナーで接点があったことに加え、日ごろから商品開発にSDGsの観点がなければ打診をかけようという発想には至らなかったと思います。SDGs印刷を入り口に、新しいお客さまとのネットワークが広がっています」

自社商品「絶滅危惧種シリーズ」もラインナップ

「こうした自社商品の展開にあたって、小ロットから製造できるデジタル印刷機の存在は大きいと感じています。オフセット印刷へのニーズは社内外でもいまだ根強いですが、印刷データを即時出力し実物をもとに営業ツールとして活用できるデジタル印刷機は強力な武器です」

――コンベンショナルとデジタル印刷の使い分けは

「当社では間欠輪転機との比較で、色数が3色以上ならば版代とトナー代などを考慮してAccurioLabel190がコストメリットを発揮します。コンベンショナル印刷向けの1、2色のジョブの方が若干多いものの、デジタル印刷を活用できる余地はまだ残されているでしょう」

バイオマスフィルム「エコマリンタック」も提案している

「バナナペーパーへの印刷にもAccurioLabel190を活用していますが、コンベンショナル印刷では繊維の影響でピンホールの問題があったのに対し、発色が鮮やかで文字もにじみがなくきれいな仕上がりです」

デジタル印刷とSDGs

――デジタル印刷に関する目標や使用感について

「将来を見据えた『アフターコロナ会議』を定期的に行い、SDGs対応や営業方法などを模索しています。その中で定めている目標のひとつが、デジタル印刷機の稼働率向上です。AccurioLabel190の利点のひとつは、刷り出しからすぐに色や見当が合って資材ロスを抑えられる点。通常の紙やフィルムと比較して単価の高いバナナペーパーともなると、ロス率がコストに直結するため同機がより効果を発揮します。廃棄物である廃材とインキ残肉の削減にも効果的です。消費電力に関しても、具体的な計算はまだできていませんが、コンベンショナル印刷機のUVランプよりも少なく済むと試算しています」

「今後、AccurioLabel190が可変幅に対応できれば、基材ロスがさらに削減できることでしょう。また、裏面の剥離紙にも情報を印刷するステッカーに対して、現在は表に同機で、裏は別途インクジェット方式の機種で刷っているため、1台で両面に刷れるようになると効率化が図れます。聞くところによると、現行モデル『同230』では追い刷りオプションで両面印字に対応しているそうです。あとは白やクリアトナーの搭載、デジタル印刷に追従する箔加飾など、付加価値を高める提案にも期待しています」

――SDGs製品の将来性について

「SDGsの目標達成に対して日本語の表記は『～しよう』という呼びかけの表現となっており、努力目標のようなイメージを与えているかもしれません。しかし、その実態は2030年までに必ず達成しなければならないゴールであり、印刷業界も向き合わなければならないテーマです」

「啓発活動に活用されるSDGsの17のロゴを印刷したステッカーの需要も伸びており、企業や自治体、教育機関から問い合わせをいただいています。バナナペーパー素材のマスキングテープも反響は大きく、ワンプラネット・ペーパー協議会の会員企業とコラボ製作する付せんやポストカードなどのアイテムも引き合いが増加傾向です」

――協議会の現状を

「バナナペーパーを啓発するイベントなどを実施しているほか、年4回活動報告を行っています。7月1日には、当社以外で初めてシール・ラベル印刷を行う企業として㈱カナエさんが加入しました」

――協議会の会員同士で競合する場面もあるのでは

「協議会の目的は自社の利益を追求することではなく、バナナペーパーを普及させ、結果的に需要を増やしていくことです。そのためには、会員企業の増加は欠かせません。バナナペーパーへの印刷のコツも隠すことなく共有できればと思います。同じ轍を踏んで苦労してほしくはないですし、色合わせなどに手間取れば資源のロスにもなってしまいますからね」

「バナナペーパーはSDGsの17項目すべてに関連するフェアトレードな紙です。『廃棄物の有効活用』『森と野生動物を守る』『貧困層の人たちに雇用を生み出しフェアトレードを行っている』『雇用によって子どもが学校へ通えるようになっている』などの観点で貢献しています。ラベル印刷会社がSDGs対応に取り組むきっかけに、バナナペーパーは最適な素材と言えるでしょう」

――貴社が標榜するSDGs印刷の展望とは

「バナナペーパーはSDGsの17項目すべてに関連している素材ですが、同素材の製品を扱うだけでSDGs対応が十分になるわけではありません。バナナペーパーはあくまでも持続可能な印刷のためのひとつの手段であり、提案のきっかけです。基材に限らず、プロダクトとその製造体制でどのようにSDGsの目標を達成していくかを考える必要があります」

イベントなどで自社商品を訴求

「SDGsステッカーやマスキングテープなどの自社商品は極小ロットからの引き合いも多く、必要な分だけ製造できるデジタル印刷機は欠かせません。また、当社ではデジタル印刷機は女性オペレーターが担当しており、目標5『ジェンダー平等を実現しよう』にも有効な設備です。総じて、デジタル印刷機はSDGsの目標達成に向け必須の設備なのではないでしょうか」

――最後に、事業の方向性を聞かせてください

「『脱請負』を目指しています。一銭の価格を叩き合うようなビジネスではなく、自社商品を作って市場を開拓していきたいですね。新型コロナウイルスの収束がいつになるかは分かりませんが、ワクチンによって元の生活に戻るのではなく、生活様式や消費行動で生じた変化は持続することでしょう。ECサイトの伸長や一層の多品種小ロット要望などに対応していけるよう、柔軟な社内体制を整えていきます」

「SDGs印刷」に欠かせないデジタル印刷機「AccurioLabel 190」

バナナペーパー製品の採用事例
JICA東京「結節点の創出へ」

啓発活動に「SDGsステッカー」を活用

シール堂印刷では、SDGsの17項目を印刷した「SDGsステッカー」の受注が増加傾向。バナナペーパーが基材に選ばれるケースは多く企業や自治体などから反響を得ている。

㈱国際協力機構東京センター（JICA東京）は、政府開発援助（ODA）の実施機関として開発途上国との国際協力を行うJICAの国内拠点のひとつであり、バナナペーパーや生分解性のバイオマスフィルムといった環境配慮型製品を素材としたSDGsステッカーを、2018年から広報に用いている。

JICA東京は東京、新潟、長野、群馬、埼玉、千葉を所管とし、省庁や地域の自治体、企業、民間団体と世界との〝結節点〟として機能している。主に教育機関との連携を担当している市民参加協力第一課の古賀聡子氏は「JICAはSDGsやMDGsの目標策定以前から持続可能な成長を支援する活動に取り組んでいますが、世のSDGsへの機運の高まりを受け、持続可能な開発をSDGsに絡めて説明することでメッセージが発信しやすくなっています」と話す。

未来の世代へつなぐために

新学習指導要領には、持続可能な社会づくり、SDGsに関する指導内容が盛り込まれており、一部の教科書ではバナナペーパーが紹介されている。古賀氏はSDGsに関する教育を授業に取り込む方法を考えるセミナーやワークショップを教員と教育機関向けに実施する中で、バナナペーパー素材のSDGsステッカーを配布し、啓発活動に努めている。学校現場では、児童生徒が新聞の中から興味のある記事を選び、関連するSDGsのシールを貼って課題解決方法を議論するなど、さまざまな方法で活用されているという。

リサイクル素材をはじめとした環境配慮型製品は、これまでもJICA東京事務所内の備品として採用してきたが、広報用のステッカーに使用したのはバナナペーパーが初めて。以前からバナナペーパーの存在自体は認識していたというが「18年にシール堂印刷さんのSDGsステッカーのサンプルを見て、ここまで薄い基材に高品質な印刷が施せるのかと驚きました」（古賀氏）と振り返る。日本の印刷技術とバナナペーパーが融合したことにより、広報ツールとして十分な品質を備えたステッカーを実現。耐候性が求められる用途では生分解性のバイオマスフィルムを採用するなど、素材を使い分けている。

古賀氏は「バナナペーパーの原材料であるバナナの茎を輸出しているザンビアは、JICAの国際協力事業でも関わりが深い国です」と説明する。19年にはバナナペーパーを製造・販売する㈱ワンプラネット・カフェがJICAによる「SDGsビジネス支援事業」に採択。ワンプラネット・カフェのエクベリ聡子社長がJICA主催のサスティナビリティーに関する講演に登壇している。また、昨年にはJICA青年海外協力隊が企画したトンガ王国の子供達へ贈るSDGsを題材としたオリジナル絵本にバナナペーパーが採用されるなど、バナナペーパーとSDGsの親和性は非常に高く、発信力がある。

持続可能な社会を実現する人材の育成に対し、印刷物が果たす役割に期待を寄せる古賀氏。「今を生きる人々だけではなく、未来を生きる世代にみんなが幸せに暮らせる地球をつなぐために、私たちに何ができるのか。サスティナブルなステッカー等によって、メッセージを発信することができます」と説く。「SDGsが持続可能な社会づくりを考えるきっかけになることを期待しています」とし、ステッカーを通じたさらなる結節点の創出を目指す。

Giving Shape to Ideas
KONICA MINOLTA
多様化する市場ニーズをカタチにしたデジタルラベルプリンター

ラベル市場では多品種小ロットジョブや短納期の要望が増加し、その対応に迫られています。AccurioLabel 230は導入コストを抑えつつ、高い生産性と操作性、高画質を提供するデジタルラベルプリンター。その特長である柔軟性を活かすことで、アナログ機では難しかった要求にも効率よく対応可能です。ラベルビジネスの拡大や既存アナログ機との併用をお考えのユーザーにとって“理想的”なソリューションを提供いたします。

多様なニーズに対応する高画質	優れた操作性
前処理不要で様々なメディアに対応	高性能カラーマネジメントシステム搭載
設置場所を選ばないコンパクト設計	安定した色再現性

AccurioLabel 230

内覧会開催のご案内
2021年 8月17日(火)～20日(金) @浜松町
バーチャル、もしくはご希望によりリアルでの内覧会を開催致します。いずれかの参加方法をご選択ください。
〈詳細およびお申込みは、こちらから〉
https://bs-offers.konicaminolta.jp/lp_2108_al230_top

AccurioLabel 230 限定公開動画
バーチャルデモで　プリンターの操作方法が分かる
ラベルビジネス対談で　導入から運用まで実態が分かる
印刷業界の課題に役立つさまざまなソリューションや製品知識を提供するコニカミノルタジャパンのWebサイト「つながるプリントラボ」にて限定公開しております。是非ご視聴ください。
https://bs-offers.konicaminolta.jp/ppj/video/accurio_label_230

コニカミノルタ ジャパン株式会社　プロフェッショナルプリント事業部　〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1　TEL. 03-6311-9061
http://konicaminolta.jp/pr/al230